

特殊詐欺対策通信

特殊詐欺発生状況

令和6年2月の状況

2月中	件数	金額	1~2月	件数	金額
R6年	15	約2,710万円	R6年	23	約1億100万円
R5年	10	約1,410万円	R5年	23	約7,480万円
増減	+5	約+1,290万円	増減	±0	約+2,620万円

※金額欄は端数を四捨五入しており、金額の増減と一致しない場合があります。

2月中の主な手口

税務署職員、年金機構職員を名乗る還付金詐欺を認知!

2月は、**税務署職員、年金機構職員**を名乗る者からの電話から始まる**還付金詐欺**を認知しました。

還付金詐欺は、昨年まで市役所職員を名乗る者からの介護保険料の還付名目の手口が多かったのですが、2月は電話を掛けてくる者のかたり、名目が変わっており、今後も増える可能性があるので注意が必要です。

還付金詐欺の手口一例

税務署職員 かたり

自宅の固定電話に税務署職員を名乗る者から電話がある。

「税金を多く支払っているので〇万円の還付金があります。」「どこの金融機関を利用していますか。」などと言われ、利用金融機関のATMに誘導される。

ATMに赴き、指定された電話番号に電話をするように指示され、携帯電話で電話を掛けると、利用金融機関の職員を名乗る者が電話に出る。

金融機関職員を名乗る者から、手続きと称してATMの操作方法を教示され、指示に従うといつの間にか犯人の口座に送金をさせられる。

年金機構職員 かたり

自宅の固定電話に年金機構職員を名乗る者から電話がある。

「年金の還付が〇万円あります。」「昨年、関係書類を送っています。手続き期限が昨年末までだったのですが、今日中に手続きをして下さい。」などと言われ、利用金融機関を尋ねられる。

利用金融機関の職員を名乗る者から電話があり、利用金融機関のATMに誘導され、ATMから電話を掛けるよう指示される。

ATMに趣き、指定された電話番号に電話を掛けると、利用金融機関職員が電話に出てATMの操作方法を教示され、指示に従うといつの間にか犯人の口座に送金をさせられる。

トピックス

特殊詐欺被害の未然防止

2月中、倉敷しげい訪問看護ステーションでは、職員が訪問先を訪ねたところ、要介護者が自宅の固定電話で通話しており、「キャッシュカードは持っているか。」など尋ねられている様子を見たことで詐欺被害を疑い、職員が自ら電話を代わって電話内容を詐欺と見破るとともに、再被害防止のために同電話を留守番電話設定にするなどしてオレオレ詐欺被害を未然に防止しました。

岡山南郵便局では、「税金の払い戻しがある。」などの電話を受けた来店客が携帯電話で通話しながらATMを操作していたことから、局員がATMの操作を制止するなどして還付金詐欺被害を未然に防止しました。

また、セブンイレブン高梁成羽東店、ローソン総社久代店等では、電子マネーカードを購入しようとした来店客に店員が購入理由を聞いて詐欺と見抜き、警察に通報するなどして架空料金請求詐欺被害を未然に防止しました。

このほかにも、金融機関やコンビニエンスストアなどで合計30件の特殊詐欺被害を未然に防止することができました。

ココに「技あり」!

倉敷しげい訪問看護ステーションの職員さんは、特殊詐欺の知識があったことに加え、要介護者と人間関係が構築されていたからこそ、電話を代わるなどして被害を防止できたもので、また、再被害防止のため、自宅の固定電話を留守番電話に設定したことは、特殊詐欺に関心を持ち、被害防止意識が極めて高くなければできない対策であり、同職員が行った行動は大変素晴らしいものと認められます。